

平成 20 年度 第 6 回常任委員会 議事録 (案)

日 時：平成 21 年 3 月 16 日 (月) 15:00～17:00

場 所：土木学会 講堂

出席者：宮川委員長，横田幹事長，井上，入矢，上田，魚本，金津，坂井，河合，島，
下村，新藤，鈴木，武若，堤，手塚，富田，中村，二羽，橋本，前川，丸山，六郷
の各常任委員，岸，佐藤，信田，服部，濱田の各幹事，
村木 (事務局)

配布資料：

- 6-0 : 平成 20 年度 第 6 回常任委員会 議事次第
- 6-1 : 平成 20 年度 第 5 回常任委員会 議事録 (案)
- 6-2 : 平成 21 年度全国大会における研究討論会企画案
- 6-3 : 2007 年制定コンクリート標準示方書「施工編」PDF 版のソフトウェア搭載について (ご検討のお願い)
- 6-4 : エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計
施工研究小委員会委員構成 (変更)
- 6-5 : ISO/TC156/JWG10 委員の推薦のお願い
- 6-6 : 平成 21 年度「重点研究課題 (研究助成金)」申請書
- 6-7 : IABSE-fib conference Dubrovnik 2010 会告
- 6-8 : 第 4 回建設材料に関する国際会議 (ConMat'09) 技術展示のご案内
- 6-9 : ギリシャとのジョイントセミナーに関する e-mail
- 6-10 : 土木学会地球温暖化対策特別委員会 提言骨子
- 6-11 : 土木学会規準として制定が望まれる試験方法の動向に関する講習会 会告
- 6-12 : 古代ローマコンクリート調査研究報告会 会告
- 6-13 : 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会成果報告会 会告
- 6-14-1 : 各部門論文集再編計画
- 6-14-2 : 土木学会論文集再編案 (部門 F)

議事：

1. 委員長挨拶：

宮川委員長より，開催にあたり挨拶があり，第一期 2 年間にわたる協力への謝意が述べられた。

2. 前回議事録の確認【資料 6-1】：

佐藤幹事より、前回の議事録（案）が読み上げられ、異議なく了承された。

3. 審議事項：

(1) 全国大会研究討論会企画案【資料 6-2】

下村委員より、平成 21 年度全国大会における研究討論会企画案として、「実務者から見たコンクリート標準示方書（仮）」の提案があった。示方書を使う実務者の視点を中心として示方書の課題を論じる。原案として、座長は宮川コンクリート委員会委員長、話題提供者は、示方書を作成した立場として魚本委員か石橋委員、アンケート実施担当として宇治委員、そのほかに発注者および受注者が各一名ずつ、30～40 代の研究者・技術者による示方書連絡調整小委員会委員長の下村委員が候補者として挙げられた。

以下に議論の要約を示す。

- ・ 発注者は、自前の指針類を持っている機関とそれ以外では大きく異なる。全国大会の会場が福岡なので、発注者の候補として九州地方整備局が考えられる。
- ・ 受注者は九州に限らなくても良い。受注者は、設計と施工それぞれの立場から 1 名ずつ登壇してもらおうとよいのではないか。
- ・ 話題提供者の人選については、幹事団および下村委員・宇治委員に一任する。座長は宮川委員長に決定した。
- ・ アンケートは連休明けに発送するので、取りまとめは 6 月くらいになる予定。

(2) 2007 年制定コンクリート標準示方書「施工編」PDF 版のソフトウェア搭載【資料 6-3】

事務局の坂本調査役および竹田課長より、某ソフトウェア開発会社から同社で販売予定の「施工計画作成支援ソフト」に示方書施工編の PDF 版を搭載したいとの申し入れがあり、これを受けて事務局で行った検討結果の説明があった。独占契約とはしない、不正コピーは防止することが可能である、使用料は年間 400 万円までは応じられるとの回答を得ており、使用料を年間 400 万円とすれば、4 年間の純益は 5000 冊分の売り上げに相当するので、示方書の販売の減少があったとしてもカバーできる、会社の信頼性は格付け機関で B 評価となっている同業・同種の会社と同等と判断される等の分析結果が紹介された。また、学会としても収支改善が急務であるので、コンクリート委員会の了承を得た上で、前向きに進めたいとの説明があった。

以下に、その後の議論の要約を示す。

- ・ ソフトは、施工編に基づいて作成されているのか。あるいは単に参照する程度なのか。
- ・ おそらく、総合評価の簡易型のときに施工計画の提出が必要で、そのときに示方書が役に立つのではないか。示方書の重要性はあるが、示方書はあくまで参考資料として使われるのではないか。
- ・ システムを作ることは結構なことである。今後、改訂のときにどうなるのかの影響の検討が必要ではないか。次の改訂の時には最新のものを提供する必要がある。学会のサー

バーにアクセスできるようにするなど、常に最新のものにアクセスできるようになっているといいのではないか。

- ・ 今回は、2007年制定版に対する許可の依頼であると理解している。次の改訂のときに契約を更新するかどうかは学会に対する不利益の有無によって判断することになる。
- ・ PDF版を掲載したソフトが売れたときの、コンクリート委員会との関係はどうなっているのか。
- ・ 事務局から、印税の支払いについて、印税率も含めて今後検討していきたいとの発言があった。委員会との関係は、仕掛品費を介して関係があるはず。
- ・ 示方書を間違えて使われたときに、学会のほうに火の粉が降り掛からないか。
- ・ そのような懸念がないように契約上はしっかりしておきたい。
- ・ ソフトウェア側に来た質問は土木学会がどの程度答えるのか。
- ・ PDFの掲載を許可するだけで、内容に対する質問への対応は示方書と同様のはず。不都合がないように、契約上はしっかりしておく。
- ・ 仕掛品費に関する不利益はないのか。
- ・ 教科書に使用した場合の引用率のルールがあるはず。それと齟齬がないようにすべきである。
- ・ 今回の提案では、そのルールよりも十分高く売ることになる。

以上の議論を経た上で、本件を前向きに進めることを了承した。

(3) 1種・2種小委員会委員追加・変更【資料 6-4】

宮川委員長より、エポキシ樹脂を用いた高性能PC鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工研究小委員会の幹事長の交代についての説明があり、鹿島建設（株）山本徹氏から山村正人氏への幹事長交代が承認された。

4. 報告事項

(1) ISO/TC156/JWG10 委員推薦【資料 6-5】

横田幹事長より、ステンレス協会より電気防食に関するISO規格の審議に当たりISO/TC156/JWG10委員の推薦依頼があり、コンクリート委員会から武若委員を推薦することが説明された。審議に当たって要望があれば、武若委員まで連絡するよう要請があった。

(2) 平成21年度重点研究課題申請【資料 6-6】

濱田幹事より、前回の常任委員会で概要説明を行った研究課題名「環境調和型コンクリート材料学の創造に関する研究」の申請書を一部修正して提出したことが説明された。資料中の委員構成は原案である。また、過日、研究企画委員会があり、応募数は18件であったが、無事内定を受けたことが報告された。

なお、廃棄物の利用に関して、行政機関が重要で、環境省からも委員の参画を受けたほうがいいのではないかと意見があった。

(3) IABSE-fib conference Dubrovnik 2010 対応【資料 6-7】

信田幹事より、IABSE-fib conference Dubrovnik 2010 対応として、宮川委員長・丸山委員他で相談の結果、コンクリート標準示方書は性能規定型の示方書として先進的であるので、丸山委員、上田委員、武若委員の 3 名に参加と発表を依頼することにしたとの説明があった。丸山委員には、2007 年制定版の内容も踏まえて 2012 年制定版への示方書の展開について、上田委員には、世界の中での示方書の位置付けについて、武若委員には、維持管理編についての発表を依頼する。

以下に、その後の議論の要約を示す。

- ・ 丸山委員から、藤野陽三東大教授からも協力依頼があったこと、多くの方からの応募ということではなく、良く分かった人からの話題提供が欲しいとのこと、コンクリート標準示方書の PR をしてくるなどが説明された。
- ・ 宮川委員長から、2002 年の fib コングレスで維持管理編を紹介したときには、なぜコンクリート委員会の PR をするのに自費で行くのかという疑問もあったので、今回はコンクリート委員会としてサポートしたいとの説明があった。
- ・ 魚本委員より、海洋架橋・橋梁調査会が国際集会参加の助成をしているので、コンクリート委員長名で申請するといいいのではないかとの紹介があった。

(4) 第 4 回建設材料に関する国際会議 (ConMat'09) 技術展示への対応【資料 6-8】

信田幹事より、第 4 回建設材料に関する国際会議 (ConMat'09) における技術展示への出展要請があった。ポスター作成費は必要となるが、出展料は無料である。8HSC-HPC でも同様の出展を行っており、コンクリート委員会として出展することとした。ポスター展示と英語版書籍の展示を行う予定である。JCI 側の担当は、久田東北大准教授。

(5) TCG-JSCE ジョイントセミナー【資料 6-9】

中村委員より、ギリシャとのジョイントセミナーの計画について説明があった。一昨年は韓国と、また昨年はスウェーデンとジョイントセミナーを開催した。今年も、ヨーロッパに注力したいということで、ギリシャの工学会をカウンターパートとして、アテネで行うこととした。先方からは、実務的でエンジニアに役立つ内容にしたいとの提案があった。国際関連小委員会の提案としては、耐震免震の進歩、ステンレス鉄筋や継手、サステナビリティの 3 つのテーマについて講師を派遣する予定。当初 8 月開催を提案したが、ギリシャ側の都合により 8 月以外になる見込み。また、国際委員会での申請が採択され、90 万円の助成を受けることとなった。講師一人当たり 30 万円程度の旅費を支給する。

(6) 土木学会地球温暖化対策特別委員会【資料 6-10】

岸幹事より、会長特別委員会として設置されている地球温暖化対策特別委員会提言骨子の概要が紹介された。また、最終報告書案のコンクリート委員会の活動に関連する部分の抜粋が回覧され、意見があれば岸幹事まで連絡することとした。

(7) 規準関連小委員会企画講習会【資料 6-11】

橋本委員より、4 月 17 日 (金) に土木学会講堂で開催される「土木学会規準として制定が望まれる試験方法の動向に関する講習会ーコンクリートの性能評価を可能とする新しい

規準体系とは一」の紹介があった。

(8) ローマコンクリート調査小委員会報告会【資料 6-12】

坂井委員より、4月24日（金）に土木学会講堂で開催される「古代ローマコンクリート調査研究報告会」の紹介があった。

(9) 331 小委員会成果報告会【資料 6-13】

下村委員より、5月27日（水）に土木学会講堂で開催される「材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会「成果報告会」」の紹介があった。武若委員の特別講演も予定されている。

(10) 土木学会論文集改革・経過報告【資料 6-14-1～6-14-2】

信田幹事（論文集編集委員会 部門F小委員長）より、土木学会論文集の改革案について説明があった。部門 E は、コンクリート論文集と舗装工学論文集に分けて別々に編集委員会をそれぞれの常置委員会の下に置く案としている。部門 A～G まで、28 の調査研究委員会の意向を確認しつつ検討が進められている。今後、調整を経て 9 月の土木学会誌に改革内容を公表する。ちなみに、部門 F は 8 つの委員会が関係しており、既にシンポジウム論文集を刊行している委員会は、それらを拡充する形で、それぞれが論文集を刊行することになる。部門 F は 5～6 の分冊構成となる予定。

丸山委員（論文集編集委員会 部門E小委員長）より英文論文集に関する補足説明があった。英文論文集の発刊計画についての議論は和文論文集の再編が定まってきた段階で本格化するが、他の分野では、かつての **Concrete Library International** のような話が出ている。しかし、インターナショナルジャーナルとなるのは難しいという印象を持っており、コンクリート委員会としては、お付き合いはする程度でいいのではないかと、コンクリート委員会としては、今後も JCI の ACT の発展に協力するのが良い。

5. その他

次年度の常任委員会は新たな委員構成となるので、次回幹事会および常任委員会の開催日時は未定。

以上